

第1回江別市生涯活躍のまち構想有識者会議開催結果（要旨）

日 時 平成28年7月5日（火）13時30分～14時45分

場 所 江別市民会館23号室

出席者 澤井 秀座長、中川雅志座長代理、河西邦人委員、小原克嘉委員、西懸昭子委員、斎木雅信委員、
鴻野 徹委員、今田英徳委員、吉川 邦俊委員、井上 智委員（計10名）

傍聴者 2名

会議概要

1 委嘱状交付

2 市長挨拶（代理 佐々木副市長）

3 開会

4 委員の紹介

5 「江別市生涯活躍のまち構想有識者会議」設置要綱について

6 座長互選、座長代理指名

委員の互選により、澤井 秀座長、中川雅志座長代理を選出。

7 議事

（1）江別版「生涯活躍のまち」構想の検討について

議事（1）について、事務局より資料1～3を説明

【質疑・意見交換】

（河西委員）構想案はどの程度の具体性を持つイメージなのか教えていただきたい。

（事務局）第2回有識者会議までの意見を踏まえ、第3回である程度事務局で整理した構想案のたたき台を示して、委員の皆様の意見を踏まえてまとめていきたい。

（2）先進事例について

議事（2）について、事務局より資料4を説明

【質疑・意見交換】

（事務局）

「生涯活躍のまち」に関する国のイメージは、高齢者を若いうちに東京から地方へ移すイメージであるが、江別市の考える「生涯活躍のまち」のイメージというのは首都圏などから高齢者を連れてくるのではなく、「江別市民が元気なうちから生涯いきいきと市内で暮らし続けることができる」ことを想定している。移住によって人口を増やそうというのは主な狙いではない。

シェア金沢の例が出ていたが、江別市がこういった施設を作るということではなく、例えば大麻地区という地区全体で「生涯活躍のまち」の機能を担うことも想定している。地域の中の、高齢者施設や障がい者施設、

商店街、コミュニティビジネス、学生とともに学ぶ機会などを活用したタウン型といった進め方も考えている。江別らしい取組を有識者会議の中で議論いただければありがたい。

構想を短期間で作る必要があるので、委員の皆様にご協議の合間に資料を送付したり、意見をいただいたりすることもあるかと思う。ご協力をお願いしたい。

(齋木委員)

江別市は基本的に施設整備を考えていないという捉えでよろしいか。

(事務局)

江別市が整備することは考えていないが、起爆剤となるような施設は必要と考えている。

(齋木委員)

ということは、施設整備も行い運営主体となるような事業者を想定しなくてはいけないと思うが、事業者に関して具体的な要件検討や調査は行っているか。

(事務局)

具体的にはないが、介護保険制度等の社会福祉制度を活用するような施設を市として位置付け、誘致するような取組を進めていかなければならないと考えている。

(河西委員)

私は当初アメリカ型の CCRC やシェア金沢のような開発型の「生涯活躍のまち」を想像しており、短期間でどこまで構想を策定できるか不安であった。しかし、社会福祉法人の施設や大学の施設などの地域資源を活用し、連携する仕組みを組み入れ、高齢者の方がいきいきと暮らすことができるという仕組みを作ることは、まさに江別版「生涯活躍のまち」であり短期間でも十分構想としてまとめることができる。

(吉川 委員)

スケジュールについて 10 月に住民説明会とある。この時期までに「生涯活躍のまち」の実施地区などがある程度を決めるものなのか。

(事務局)

そこまでは考えていない。構想の対象が市全体になれば、市民全体への情報発信ということになるので、地区ごとではない説明会もありうる。できあがった構想に応じて住民説明会の方法を検討したい。

(澤井座長)

開発型ではない江別版の「生涯活躍のまち」ということであるが、検討の進め方として何かご意見あるか。

(河西委員)

先進地視察として開発型の例だけではなく、高齢者の方がいきいきと暮らしているような地域を視察するのも一つの方法かと思う。

キーワードとしては「高齢者によるコミュニティビジネス」になると考える。国が示した資料によると有職の方の方が認知症になる率が低いというデータもある。江別市にはビジネスマンや行政マンとして活躍された方も多いので、そういった方が再び活躍できるような仕組みづくりが大切である。

(齋木委員)

内閣府の高齢者意識調査では、70%を超える高齢者が一定年齢までは働きたいと考えている。仕事といっても現役の時のように働くことを指しているのではなく、働きながらいきいきと暮らしたいという希望がある。直接的に収入を得るような仕事でなく、ボランティア的な仕事もあるかもしれない。「生涯活躍のまち」として働き続けられるエリアづくりに向けた本検討は非常に有意義であると思う。

(河西委員)

江別市の高齢者の方がどのような意識で生活されているのか伺いたい。

(小原委員)

高齢者はどんどん増えてきている。敬老会なども活動場所が狭くなってきているという課題がある。お祝いの数も多くなっており見直しが必要な段階である。健康な人が多くなっているので、いきいきと暮らすことができる地域づくりが一番の関心事であり、「生涯活躍のまち」に対する関心も高い。健康のため、日々の張り合いのために働くことができるとよい。

(澤井座長)

国の「生涯活躍のまち」の報告を読むと、東京の高齢者を地方に押し付けるとも読めるが、江別市としては江別市民を主な対象として考えているということで検討を進める意義があると思う。ただ、「生涯活躍のまち」構想について大風呂敷を広げると際限がなくなり実現性が低くなってしまう。ある程度実現性を確保し、成果を確認できるような構想が良いかと個人的に考えている。

また、「生涯活躍のまち」の対象を明確にしておくことが必要であると思う。対象となる年齢層や所得層などはある程度念頭に置きながら考えないといけない。

もう一つ、「生涯活躍のまち」を作り上げたら終わりということではなく、継続性が大切になる。新たなコミュニティに新たな人が入り新陳代謝を起こしていかなければならない。実際は運用していく中で考えていくことになるが、策定の段階においてもある程度人の入れ替わりを想定しながら検討していく必要がある。

8 その他

次回の日程は8月30日午後で調整中。

9 閉会